

**（仮称）柏市民公益活動支援センターの
整備に向けての提言書**

平成17年12月

柏市民公益活動支援センターを考える会

目 次

1 . はじめに.....	3
2 . 「市民公益活動支援センターを考える会」設置について.....	4
(1) 目的	
(2) メンバー	
(3) 会議内容スケジュール	
3 . 基本理念.....	6
4 . 目的.....	7
5 . 市民公益活動支援センターの機能と事業.....	8
(1) 5つの機能と事業内容案	
(2) 既存施設・組織との関係	
6 . 利用方法.....	12
(1) 開所時間と休業日について	
(2) 利用できる団体について	
(3) 必要な施設・設備について	
7 . 運営にあたっての基本的な考え方.....	14
(1) 運営について	
(2) 評価の仕組み	
8 . 資料編.....	16
各メンバーが望む支援センターについて	
アンケート集計結果	
タウンミーティングでの主な意見	

1.はじめに

少子高齢社会の到来や地球規模での環境問題の発生、さらには情報化、国際化等の社会情勢の変化により、地域社会が抱える課題は複雑かつ高度化しており、それに対する新しい社会システムの構築が求められています。

一方、こうした課題を自発的かつ非営利で解決しようとする市民公益活動も活発化しており、今後の地域社会を支える大きな原動力となることが期待されています。

柏市では、こうした市民公益活動に着目し、柏市第四次総合計画において「市民との協働」の重要性と支援方針を打ち出し、さらに具体化した支援施策を定めたものとして、平成16年10月から「市民との協働に関する指針」と「柏市民公益活動促進条例」を施行しました。

この中で、「活動環境の基盤づくり」は実際に活動している、またはしようとしている個人や団体を総合的に支援し、これら個人及び団体の相互交流と連携を図るための拠点としてニーズも高く、また、市が取り組むべき緊急かつ最も重要な施策の一つでもあり、今後の市民公益活動の核ともなるべきもので、その発展にあたっては必要不可欠なものと考えます。

「柏市民公益活動支援センターを考える会」(以後「考える会」とする。)は、こうした「(仮称)市民公益活動支援センター」(以後「支援センター」とする。)を整備するにあたって、運営、あるいは利用する立場により、そのあり方や具体的な機能等について、自ら協議することを目的に平成17年4月に設置しました。考える会では、行政主導とならないよう会議自体の企画運営を(特活)NPO支援センターちばとの協働体制とするほか、先進支援センターへの視察や市内の市民公益活動団体へのアンケート、タウンミーティングの開催等、市民参加の手法を随所に取り入れながら、幅広い市民主体の検討を行ってきました。また、検討経過をホームページへの掲載やニュースレターを発行して情報公開にも努めました。

このように考える会においては、あらゆる手法を活用して延べ11回の検討を重ね、このたびの提言書を取りまとめるに至りました。これは各メンバーの熱心な議論の賜物であることを柏市は十分理解し、必ずやこの提言書の内容を実際の整備や運営に活かして頂けるものと確信しております。また、市民や市民公益活動団体においても、利用する側としての立場だけでなく、自らが責任と役割をもって参加することを期待します。

2. 「市民公益活動支援センターを考える会」設置について

(1) 目的

支援センターの設置の検討にあたっては、そのプロセスについても重視し、運営あるいは利用する立場において、自ら検討し創出することを目的に、公募によりメンバーを募集しました。その趣旨に多くの市民に賛同して頂き、無償にも関わらず多くの方々の参加を得ました。

(2) メンバー

一般公募の市民 15 名と柏市、そして、地域に根付いた活動をし、ボランティアセンターを運営している柏市社会福祉協議会と民設民営の中間支援組織である(特活)NPO 支援センターちばの合計 20 名で構成されています。

(以下、応募順 敬称略)

塚越 忠夫 (特活)たすけ愛クラスター
四元 恒慈 (特活)都市づくりNPOさいたま, 協働 参加のまちづくり市民研究会
吉田 孝子 (特活)エアロームかしわ
保田 行弘 増尾地域ふるさと協議会
高田 昭治 名戸ヶ谷ビオトープを育てる会
増田 泰子 ふそう会
山岡 平三 (特活)パートナーとうかつ
中村 典道 (特活)パートナーとうかつ
岡田 幸男 (特活)夢の笛
吉村 友佑 Dio クラブ太助
高橋 昌代
土谷 和光 (財)モラロジー研究所、国際交流協会
大島 安輝子(特活)エアロームかしわ
松田 月子 国際交流協会、グッドウィルガイド協会
小島 琢夫 (特活)ときわ会まちづくりネットワーク、(特活)デイホーム笑実里
諏訪部正敏 柏市社会福祉協議会ボランティアセンター
藤田 哲也 柏市社会福祉協議会ボランティアセンター
岡田 哲郎 (特活)NPO 支援センターちば
鬼澤 徹雄 柏市市民生活部市民活動推進課
後藤 能成 柏市市民生活部市民活動推進課

事務局：宮奈 由貴子 (特活)NPO 支援センターちば
松浦 光恵 (特活)NPO 支援センターちば
遠藤 尚志 (特活)NPO 支援センターちば インターン
松澤 元 柏市市民生活部市民活動推進課
渡邊 理恵子 柏市市民生活部市民活動推進課

(3) 会議内容スケジュール

回数	実施日	検討内容	アドバイザー
第1回	H17 4/12	メンバー紹介 勉強会（支援センター設置に関する全国の動き）	山岸 秀雄さん（特活）NPO サ ポートセンター理事長
第2回	4/28	先進支援センターの視察 ・北区 NPO ボランティアぷらざ ・浦安市市民活動支援センター	北区：小原宗一さん 浦安市：鶴見仲寛さん
第3回	5/30	会の進め方の検討 支援センターのコンセプトの検討	
第4回	6/21	会の進め方の決定 既存資源との役割分担について 機能を考える 「情報の受発信・蓄積」と「相談・研修」	
第5回	7/8	機能を考える 「交流」 機能を考える 「コーディネート・ネットワーキング」	
第6回	8/9	機能を考える 「コーディネート・ネットワーキング」 運営方法を考える 「運営主体について」	
第7回	8/30	運営方法を考える 「運営協議会」 機能を考える 「場所・施設等の提供」	
第8回	9/22	機能を考える 「場所・施設等の提供」 必要な設備・備品、利用方法等について	
第9回	9/28	これまでの議論のおさらいと、評価の仕組み等について、ア ドバイザーからの話	粉川 一郎さん（特活）コミュニ ティ・シンクタンク評価みえ
第10回	10/4	まだ議論の足りていなかった、運営形態やボランティアセン ターの関係、設置場所についての整理	
タ ウ ン ミ ー テ ィ ン グ（10/28）			
第11回	11/14	提言書の確認・修正	
提 言 書 の 提 出（12/16）			

その他、5月に市民公益活動団体を対象にアンケートを実施。

ニュースレターを計3回発行

3. 基本理念

そもそも市民公益活動は自主、自立で行なうべきものですが、その促進のためには、市民公益活動団体が力量形成をし、自立を促すような環境整備が必要です。

そのために、市民と市がそれぞれの持つ知識や情報、技術等の能力や利点をそれぞれの役割分担において最大限に発揮することが必要です。

活動拠点となる支援センターについてもその精神を活かし

「市民の、市民による、市民のための活動を、市民と行政との協働によって実現する。」

を基本理念といたします。また、他ではみられない、独自色豊かな地域特性のある「柏らしさ」のある支援センターをめざします。

なお、支援センターの名称については、「支援」という言葉が適切なのかどうかということもあり、今後、愛称を考える等、より明確な「柏らしさ」を象徴するものとして考えていきます。

4. 目的

(1) 裾野の拡大（個人への活動の参加促進）

市民公益活動にとって「人」は、大きな財産であり、継続する上で「人」なくしては今後の活性化は望めません。また、団塊世代が地域にもどった時の「生きがいの場」であったり、障害者や若者が地域で生きていくための「働く場」としても、市民公益活動への期待が高まっています。

支援センターでは、これから市民公益活動を始めたい人、さらに活動を深めたい人が気軽に参加できる機会をつくるとともに、次世代を担う人材の発掘や育成を図りながら、市民公益活動を今後も継続的に活性化することに努めていきます。

(2) 団体のもつ課題への対応（団体の活動促進への環境整備）

市民公益活動団体は、組織の成長過程や活動分野、地域によって多種多様な課題を抱えていたり、なかなか解決の手立てを見出せずじたりします。また、相談を持ち寄れる人や場所をもっていないというのが現状です。

支援センターでは、これからますます新しい活動が発展していくためには、まずは既に活動している団体がきちんと課題を精査し、解決の手段を学び・実践しながら、そのノウハウや実績を蓄積していける環境整備に努めます。その上で、既存の団体が、新しい団体を育てると同時に、既存の団体にとっても、新しい団体から学ぶことのできるような、いつも学びあえる場をつくっていきます。

(3) 多様な組織間でのネットワークの構築（あらゆる主体を対象）

地域の共通課題の解決や共通利益の追求には、単一団体だけでなく、分野や地域を越え、セクターを越えて、関係するより多くの主体が協働することで、さらに効果的に事業を進められることが多々あります。しかし、現実として、そのパートナーと出会えないという現状がよくあります。また、様々な主体との連携を日常的に持てないことは、時として、視野を狭め、活動を鈍化させる場合も見受けられます。

支援センターでは、個人と団体、団体と団体、行政と団体、企業と団体等、様々な主体が、出会える場づくりを積極的につくっていくとともに、情報の拠点となることに努めます。

5 市民公益活動支援センターの機能と事業

上記の目的を達成するために、支援センターの機能として、大きく5つの機能を設け、それらを有機的にコーディネートしていきます。

情報の受発信・蓄積

相談・研修

交流

コーディネート・ネットワーク

場所・施設等の提供

(1) 5つの機能と事業内容案

情報の受発信・蓄積

1) 情報収集・情報発信のお手伝い

支援センターでは、団体の活動に際して有益な情報を提供すると同時に、団体が情報発信をする際に、より効果的に発信できるお手伝いをします。そのために、より新鮮な情報を収集するため、日常的に地域の団体と情報交換ができるような仕組みを構築していきます。

2) すぐ使えるかたちの情報提供 ～クリッピングサービス

より有益な情報提供をするために、情報を羅列するだけでなく、利用者のニーズにあった情報を、テーマごとにコンパクトに編集することで、すぐ使え、価値ある情報を提供できるようにします。

3) 市の各分野での取り組みについての情報提供

市設置の支援センターの特徴を活かし、市としての支援施策についての情報提供にとどまらず、市民公益活動に関連してくるであろう、各課・各部署からの情報も取り揃えていきます。

4) 人がいるところに出向いて知らせる掲示板

特に地域の活動ならではの効果的な媒体として、アナログの掲示板を駅前や商業施設の中に設置し、“人が来るのを待つ掲示板”ではなく、“人がいるところに出向いて知らせる掲示板”にする必要があります。

主な事業内容：

掲示板、イベントラック、クリッピングサービス、メールマガジンの発行、ニュースレターの発行、図書の貸し出し、データベース・人材バンク等。

相談・研修

1) 市設置ならではの行政との連携・協働の拠点

柏市では、「協働推進リーダー」を各部署に設置するほか、「協働事業提案制度」が始まる等、協働の土壌は整えられつつありますが、まだまだ日常レベルでの情報交換や、人や

団体間での交流が多くないことで、互いの情報がめぐり合う機会は決して多くありません。そこで支援センターでは、市にとっても、市民にとっても「困ったときの情報拠点」として、お互いに歩み寄ることができるセンターを目指します。

2) ワンストップサービス ~適材適所の相談窓口

一つには、「協働推進リーダー」との連携による、市側への窓口になり、一つには、マネージメントの専門家たちへの橋渡しとなり、常に、新しい情報を蓄積し、連携・紹介していくことができるようなワンストップサービスを目指します。

3) 縦と横のつながりをつくり、学びあえる場をつくる

専門家に相談するだけでなく、もっと日常的に現場同士で相談し合える場づくりを目指します。まず、縦のつながりとして、既存の団体が、新しい団体に、地域特有の課題解決のノウハウや情報を提供すると同時に、既存の団体にとっても、新しい団体から学ぶことのできるような、いつも学びあえる場をつくっていきます。同時に横のつながりとして分野別、地域別等、テーマごとの共通課題を共有する場をつくっていきます。

事業内容

ワンストップサービスとしての総合相談窓口、電話相談、専門家への相談日の実施、各種テーマにおける研修等。

交流

1) 交流サロン ~支援者を募る場づくり

市民公益活動において、ヒト・モノ・カネ・情報といった地域資源を上手に調達し、マネージメントしていくためには、様々な人に思いを伝え、共感を募り、様々な形で支援してもらえる機会をサロンというしくみによりつくっていきます。

2) お祭りのイベントで裾野の拡大

市民公益活動をもっと身近なもの、日常的なものとするために、これから活動したい人や、サービスを受けたい人を対象とした、年に数回の大々的なイベントを実施することで、市民公益活動に携わるきっかけづくりの場を提供していきます。

3) 掲示板を通じた交流

掲示板というと、一方向に情報を発信するものが多いですが、例えば、「譲ります」「買います」といった双方の需要と供給をマッチングするようなしくみを、掲示板を通して、つくっていきます。

事業内容：

掲示板での情報交流(常設とキャンペーン型)、おまつりやフェスティバル型のイベント、交流サロン、体験型ワークショップ等。

コーディネート・ネットワーク

1) ワンストップサービスと連携した、前向きなコーディネート

「紹介してください」という要望だけに対応するのではなく、何を相談したらいいか分

からない人を対象に、潜在的に必要としている情報や人材を、積極的につないでいく、前向きなコーディネートをしていきます。

2) セクターを越えた、双方向的なコーディネートの拠点づくり

企業や商店街、学校や大学、行政等、ふと情報を得たいと考えても、なかなかアプローチの手立てを持っていない団体が多くあります。同時に、企業や商店街等も、市民公益活動団体についての情報を得たいと思っても、その手立てを持っていないことが多くあります。そういったセクター間のコーディネートができるセンターを目指します。

事業内容：

サロン、窓口業務、掲示板/ラック等

場所・施設等の提供

1) 市民公益活動団体にとって使い勝手のよい環境整備

支援センターの利用者として、既存の団体やこれから活動をはじめようとしている団体・個人等、いくつかが対象が考えられます。まずは、すでに活動又はこれから活動しようとしている団体のニーズに応え、使い勝手がよく、居心地のよい支援センターを目指すために、新しい参加者を招き入れ、活性化を図っていきます。

2) 最低条件

また、支援センターとして、集客力の確保はもとより、市民公益活動の周知という面も考えなくてはなりません。こうしたことから、次の条件をクリアする設置場所を選定すべきと考えます。

- ・ JR 柏駅前から徒歩 15 分以内の距離に位置すること
- ・ 少なくとも 150 m²ほどのスペースを有していること

事業内容：

オープンスペースの開放、作業室、会議室等の貸し出し、パソコン・プロジェクター等の備品の貸し出し、貸事務所の提供、印刷機の使用、ロッカー・メールボックス、レターラック等

(2) 既存施設・組織との関係

支援センターの機能を考える上で、市民公益活動に対してのサービスを実施している、以下の既存団体・施設との役割分担や連携のあり方については次のとおりとしました。

柏市社会福祉協議会（ボランティアセンター）

ボランティア等のコーディネート業務については、社会福祉協議会のボランティアセンターにて、すでに取り組みされており、意向調査等の現地確認が必要であることや、もともとの設置目的や経緯が異なることから、この支援センターにおいて取り込むことはしないこととしました。

なお、ボランティア等の相談については、ボランティアセンターと連携しながら進め、また、独自のボランティア・コーディネートについても段階的に検討することとします。

民設民営の中間支援組織

利用者にとっては、どちらにどんな情報やサービスがあるのかが分かりにくいいため、常に互いに情報交換をしながら、利用者にとって選択肢の幅が広がるような情報提供に努めていくこととします。

近隣センター等の公共施設

地域に点在する近隣センターの情報や資源を積極的に活用していきます。情報の共有や連携についても検討していくこととします。

6 . 利用方法

(1) 開所時間と休業日について

現状の市民公益活動団体の活動状況を考慮するとともに、幅広い層の利用者に対応できるものとするため、基本的には次のとおりとします。ただし、利用状況等により柔軟に対応することとします。

開所時間：10:00～21:00

閉所日：週休一日（曜日は未定）、お盆、年末年始休み

(2) 利用できる団体について

それぞれの施設や設備、機能が管理・利用しやすいように、利用できる個人、団体を階層ごとに限定することとします。また、登録制度を設け、特に施設や設備の借用等については、登録した団体のみ利用できることとします。なお、基本的に、登録ができる団体は市民公益活動団体とします。

施設・設備・機能ごとに利用できる団体は下表のとおりです。

施設・設備・機能	一般	市民公益活動団体（未登録）	市民公益活動団体（登録済）
オープンスペース			
閲覧用パソコンコーナー			
図書コーナー（貸し出し）	×	×	
会議室等の借用	×	×	
作業室（コピー・印刷等）	×	×	
ロッカー・メールボックス	×	×	
掲示板への掲示	×		

(3) 必要な施設・設備

支援センターの各機能を最大限に活かせるような施設・設備に優先順位をつけて着実に揃えていく必要があります。

なお、受益者負担の観点から、利用にあたっては実費相当分（低廉な価格設定とする）を負担してもらうこととします。

必要な施設・設備の例

オープンスペース、閲覧用パソコン、会議室、作業室（複写機、印刷機、紙折機、裁断機等）、ロッカー、メールボックス、掲示板、貸事務所機能（LAN設備）、拡大プリンター、プロジェクター&スクリーン等

有料の施設・設備の例

会議室の借用、コピー代、印刷代、パソコンからのプリントアウト、プロジェクター等の重要備品の貸出、ロッカーの借用、貸事務所の借用

7. 運営にあたっての基本的な考え方

(1) 運営について

運営主体

市設置の支援センターとしての強みを活かすべく、また、支援センターの各機能や事業内容を円滑に行えるようにするために、市と市民、市民公益活動団体が互いに協力し合えるような運営を行います。

このような運営の実現のため、どのような形態が柏市の支援センターに望ましいか検討した結果、市がこれまで培ってきた資源や人材の活用、各種事業等での連携が必要であること、さらには安定的運営の観点からも、市直営が最もふさわしいと考えました。

ただし、3年後を目途に、指定管理者を含め、運営方法の見直しを行うことが望ましいと考えます。

市民が自立的・自主的に運営に携わる組織の設置

支援センターは、地域の課題やニーズに自主的に関わり、解決すべく活動している人や団体を支援することを目的としており、その運営については自立的・自主的かつ責任をもった体制で行うことが望ましく、また、利用者のニーズに対応した柔軟な支援を実施できる体制が必要です。

こうしたことから、基本的には、市民だけ、市だけ、または特定の団体だけとならないよう、市民と市、団体等が協働して運営に携わり、運営方針や事業計画等に責任を負う機関を設置することとします。

なお、運営に携わる機関の構成としては、市民/団体、市、専門家、企業等とし、任期を定めることとします。

幅広い人材の確保

支援センターの運営にあたっては、様々な事業を企画・実行したり、市や団体、企業等へのコーディネート、団体や個人からの相談等、実際に携わる人材には高度な能力と専門的な知識が要求されます。

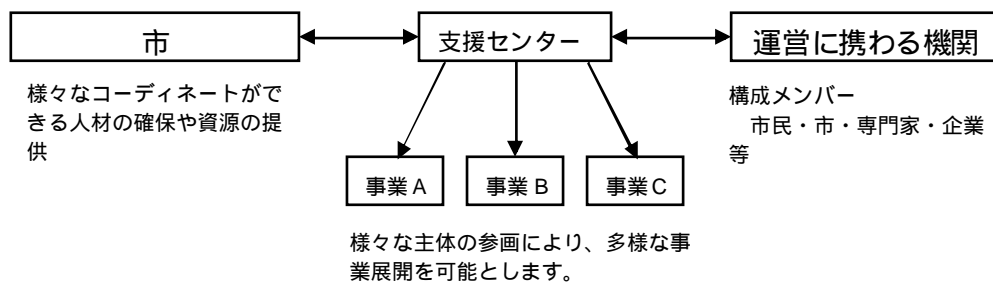
こうした人材を常勤で確保するとともに、必要に応じて部分的な事業実施のための非常勤職員や臨時職員、またはボランティアスタッフ等の協力も得ながら、幅広い人材の参加によって支えられたものとします。

多様な事業展開を可能とする様々な主体の参画

具体的な事業展開については、効果的なサービス提供ができるよう、様々な主体が、事業ごとにその企画・運営に参画できるしくみ(委託・実行委員会等)を取り入れていきます。

また、各団体や個人の得意とする部分を活かしてもらいながら、この協働の場に入出入りするプロセスの中で、団体間のネットワークを広げる機会になるという側面もあります。

なお、市だけ、市民だけ、特定の団体だけといったように、携わる主体が偏らないよう配慮していきます。



(2) 評価のしくみ

柏市の市民公益活動団体のニーズや活動形態の傾向というものの変化に対応していくために、あらゆる場面での評価を実施していきます。

評価の内容を大別して、事業内容について、センター全体の運営マネジメントについて、行政施設としての評価といった観点について、受益者評価、支援者評価、第三者評価、自己評価の4つを用いながら行っていくことを検討します。

8 . 資料編

(各メンバーが望む支援センターについて)

考える会の各メンバーから現時点で考える「理想の支援センター像」についての「思い」を掲載します。

塚越 忠夫

支援センターの機能の中、情報の受発信・蓄積が優先される必要がある。常に外に働きかける姿勢を持ち続けることにより、各団体や市民がセンターの存在を意識し、活用する端緒となることを期待する。

四元 恒慈

ふらっと街に出たときに、ふと立ち寄って、お茶とお茶菓子が出てくる……。横にいたお姉さんとちょっとおしゃべりしてみると、新しい活動が発展した。そんな支援センターだと嬉しいです。

吉田 孝子

「人のつながり」が、まちづくりの原動力です。各団体が交流できるシステムづくりと、誰でも気軽に訪れて一緒に活動していけるような仕掛けとして、常に話し合いができる広さのオープンスペースが必要だと感じました。

保田 行弘

センターの運営で一番大切なことはマネジメントだと思う。当初策定した「理念」「目的」をいつも考察のベースとし、日常業務や各種事業を行うに当たっては「楽しく」をキーワードとすることが肝要と思う。

高田 昭治

しきいの低い機関（人、組織、設備、利用費用など、すべてにおいて）であること。気楽に集まり、相談したり、議論したり、打合せできる、従って、人も多く集まるとというのが抽象的ですが、わたしの理想像です。

増田 泰子

バリアフリーでみんながにぎやかに集える場であり、一層市民活動が活発になることを願っています。生きがいのある活動から柏の文化が育まれ、まちづくりが進み、さらに豊かな暮らしができるようにと考えています。

山岡 平三

センターの設立後は運営が肝要ですね。そのポイントは、Passion.Mission.Action と

Plan.Do.Check の両輪を廻す事。その為には、Experiennce.Theory が基礎となります。略して「PaMA-PDC&ET」の原則を大切に

中村 典道

限られた面積の中で、相談情報コーナーや交流室・作業室など、余り多機能を求め過ぎると、他市既存のものと同列になる。最初に力を注ぐべきは、市民活動団体の拠点及び活動コーディネートの“拠点づくり”と考える。

吉村 友佑

市民いきいきの街「柏」を目指して

市民活動の態様は様々であり、活動の理念もまた多様であると思う。そうした中で、今回の「意見書」は幅広く支援センターの在り方を検討して纏められており、それ以上に付け加える意見は考え難い。むしろ、「意見書」の内容がどれくらい現実のものになるのが最大の課題であり、それは即柏市での行政と市民の協働の質を象徴することになる。行政と市民が並立するのではなく、地域の活動力として車の両輪となることが求められている。

高橋 昌代

市民活動を後押しするだけでなく、それぞれの良さを組み合わせる事により、新しい公共サービスを提供できるのではと期待しています。それが又、各団体の活性化につながると同時に幅広い市民の参加につながるのでは

大島 安輝子

従来の行政サービス機関とは異なり、市民が運営中枢にいて、民間のアイデアをたくさん実現できる場であること。時間とお金にゆとりのない人でも、ボランティア精神などない人でも、夢が得られる場でありますよう。

松田 月子

理想の支援センターは自主自立であること。今の社会が求める協働は、行政の役割と民間の特性を活かし誰もが参加。その為にセンターは知恵と熱意で、市民が公益活動をより活発に出来、受益もできる環境を整えること。

小島 琢夫

- ・ 質の高い情報の発信基地になっている状態
- ・ 「市民との協働」のプラットフォームとしての役割を果たし、多くの市民が社会的課題に取り組む場となっている状態
- ・ 他の地域からも関心が寄せられている状態
- ・ 新しい市民意識の醸成に役立っている状態

岡田 哲郎

いよいよ柏市に市民活動支援のためのセンターが設置されることになりました。前段で柏市らしいセンターを作るためみんなで意見を出し合いました。設置後こそ、みんなの協働で柏らしいセンターの運営を期待します。

諏訪部 正敏

社協ボランティアセンターとも話し合いながら、地域の課題を解決し、地域での助け合い・支え合いのできる関係づくりを創っていくための「人づくり」と「連携づくり」の拠点となるような施設を希望します。

藤田 哲也

この支援センターが、「柏市民にとって親しみやすく、誰もが気軽に利用できるセンター」になるよう、市民の皆さんに参画いただきながら、日々成長していければと思います。

鬼澤 徹雄

支援センターを整備して終わりではありません。如何に多くの市民や市民公益活動団体の方々に、利用してもらえるかが重要です。「柏らしさ」を持ったセンターにするために、これからが本当の意味のスタートになると思います。

後藤 能成

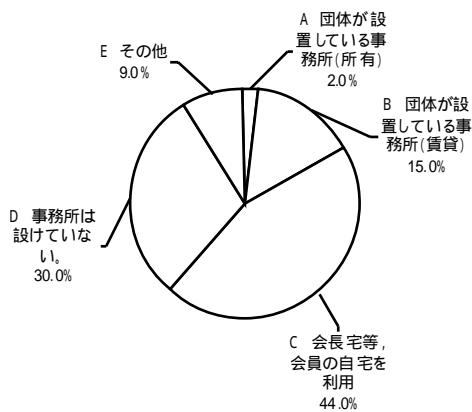
いい意味で市から独立し、市民が自主的に運営することで、市も1支援者,1利用者として関わることのできるセンターが理想的と考えます。また、センターの設立により市民公益活動の発展や裾野の拡大になればと思います。

(アンケート結果)

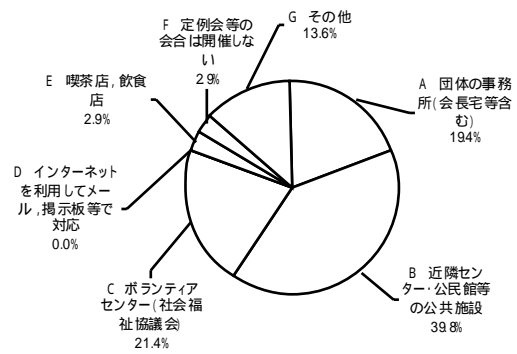
柏市内の市民公益活動団体（NPO法人，ボランティア団体等）を対象に，郵送によりアンケート調査を実施（調査期間：平成17年5月9日～5月18日）しました。回答率，集計結果については次のとおりです。

配布数	184
回答数	99
回答率	53.8%

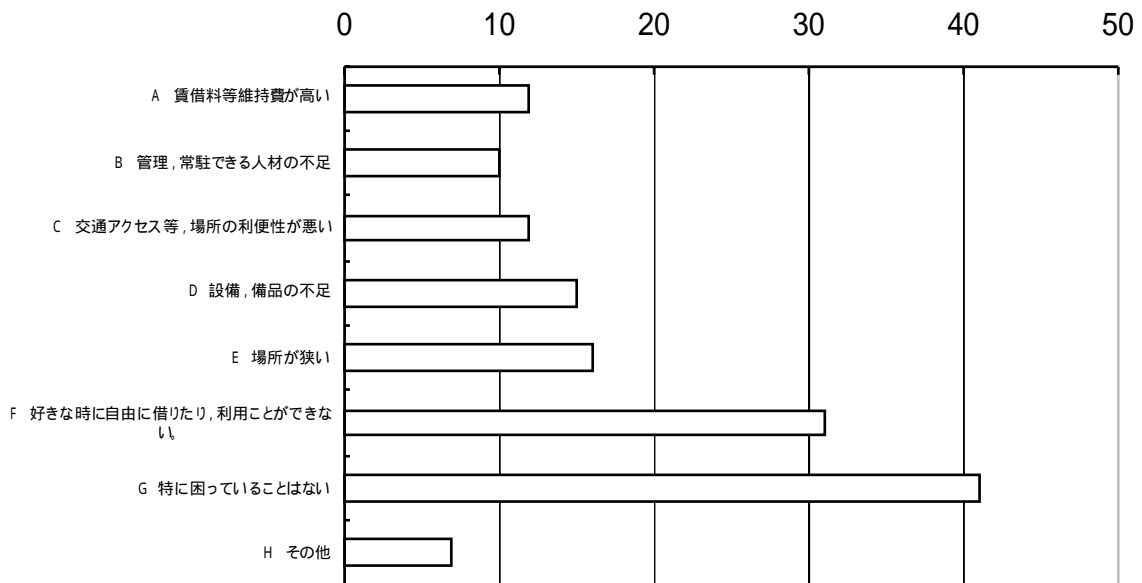
問1 貴団体の事務所はどちらになりますか



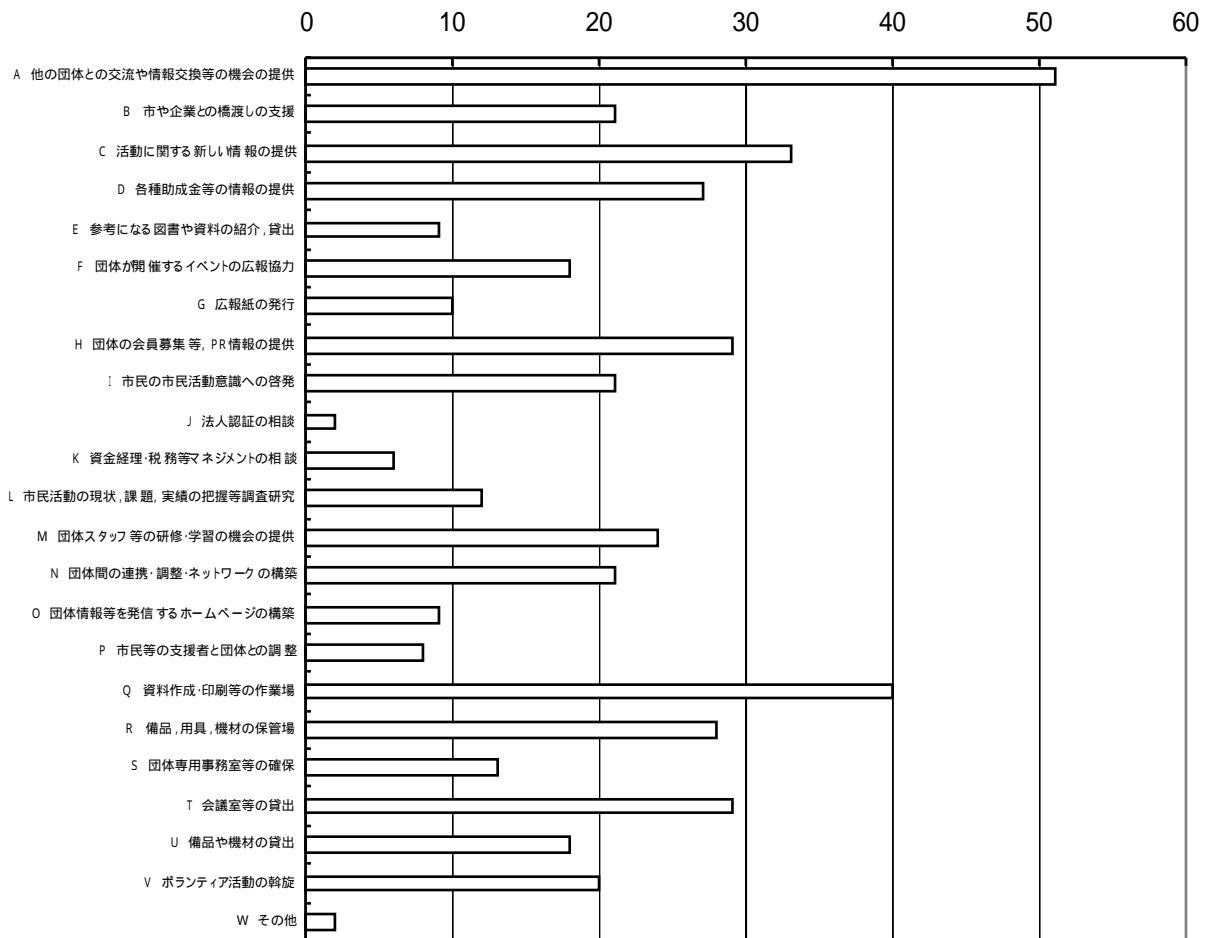
問2 貴団体が定例会等の会合を開催する場所はどこですか。



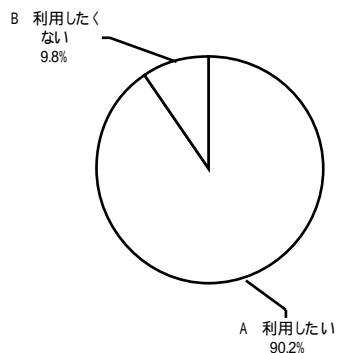
問3 事務所及び会場場所について困っていることはありますか



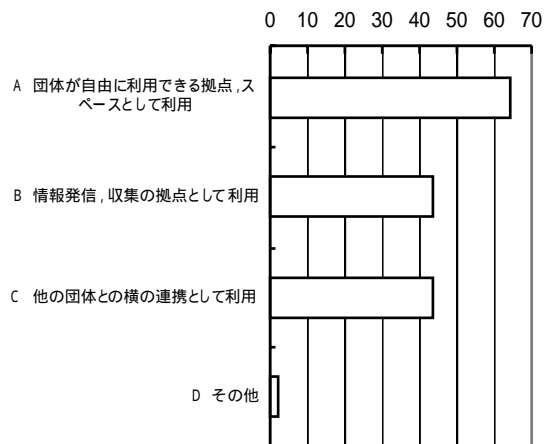
問4 支援センターに必要な機能について(特に必要と思うもの5つまで)



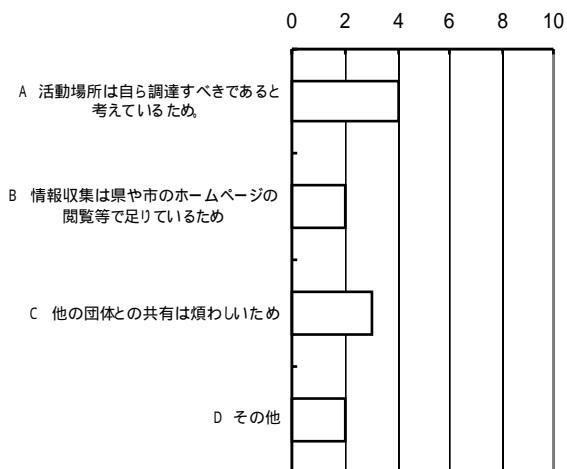
問5 「支援センター」を利用したいと考えていますか。



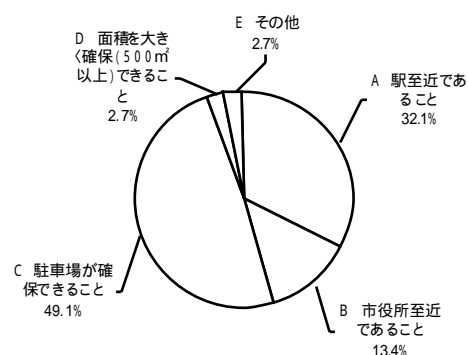
問6 「支援センター」をどのような目的で利用したいと考えていますか。(問5でAと回答した方のみ)



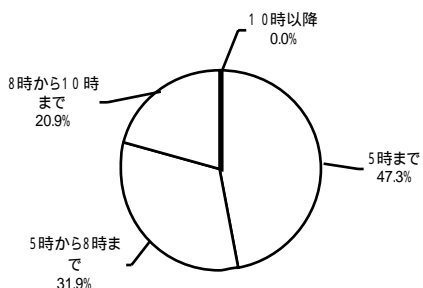
問7 「支援センター」を利用したくない理由は何ですか(問5でBと回答した方のみ)



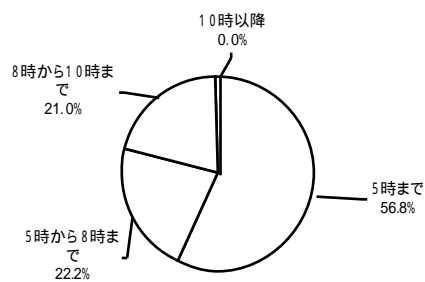
問8 「支援センター」の場所について、どれを重要視しますか



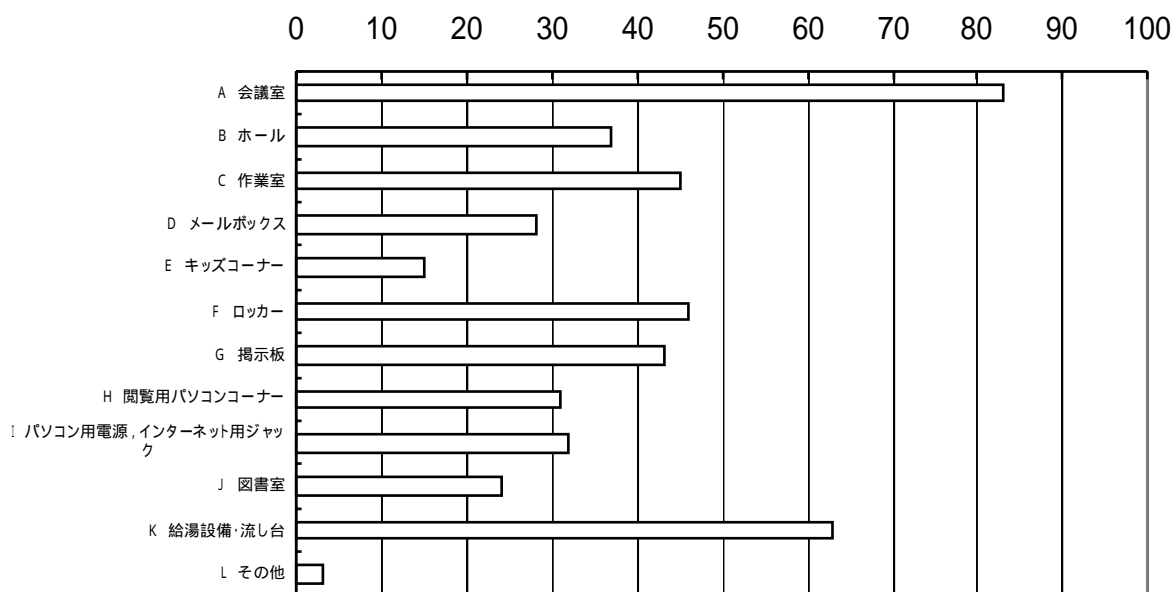
問9 「支援センター」の閉所時間(平日)



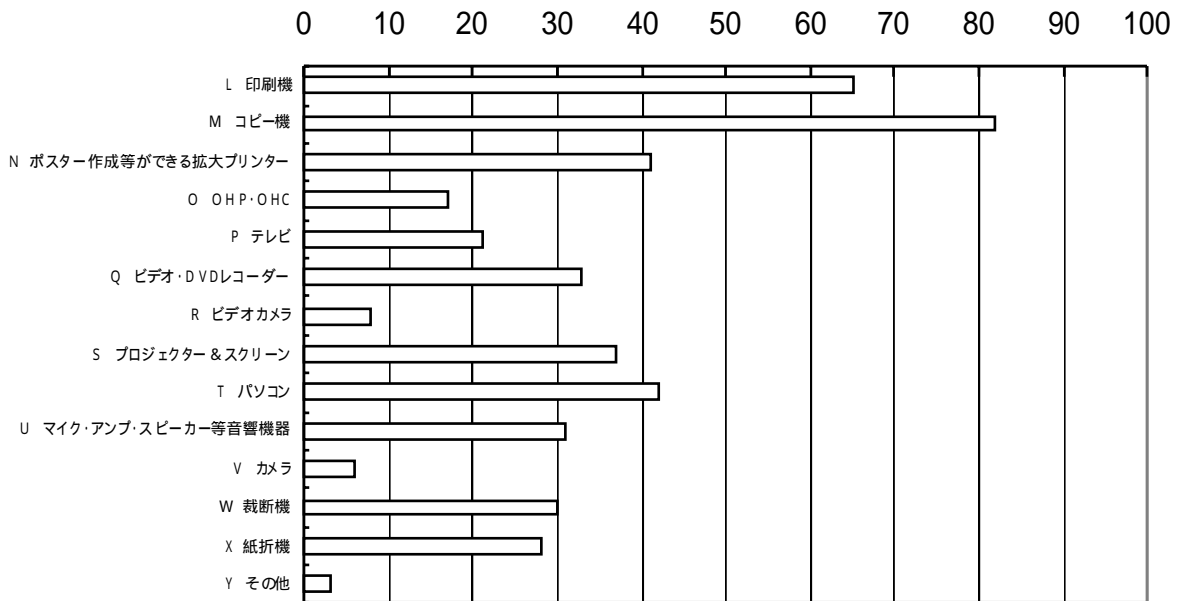
問9 「支援センター」の閉所時間(土日祭日)



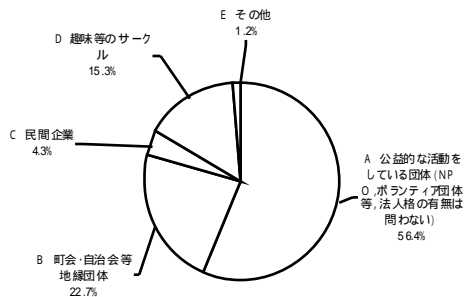
問10 「支援センター」に必要な設備・備品は何が考えられますか(設備)



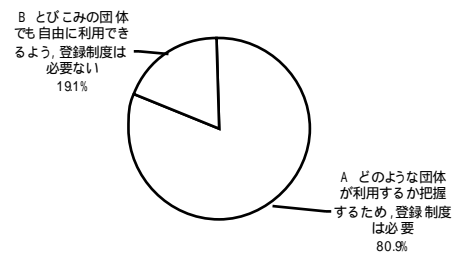
問10 「支援センター」に必要な設備・備品は何が考えられますか(備品)



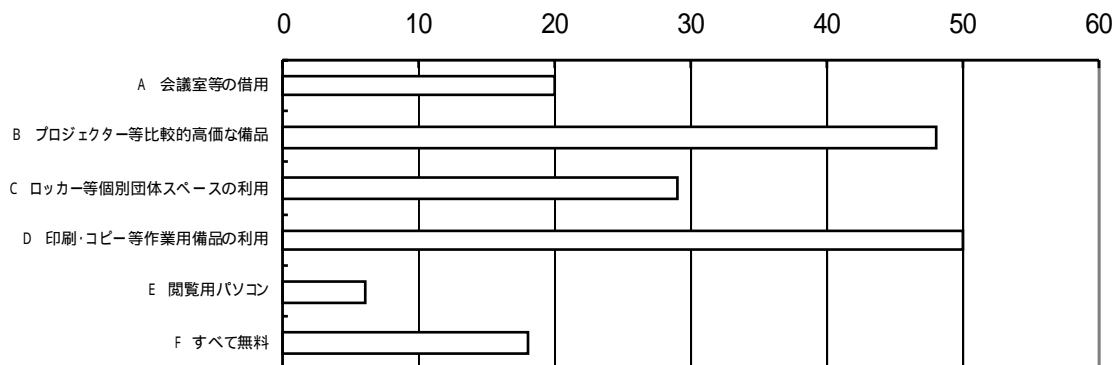
問11 「支援センター」を利用できる団体



問12 「支援センター」を利用するにあたり「登録制度」が必要かどうか



問13 「支援センター」の施設や備品の利用にあたり、有料化すべきものはどれが適当だと考えていますか。

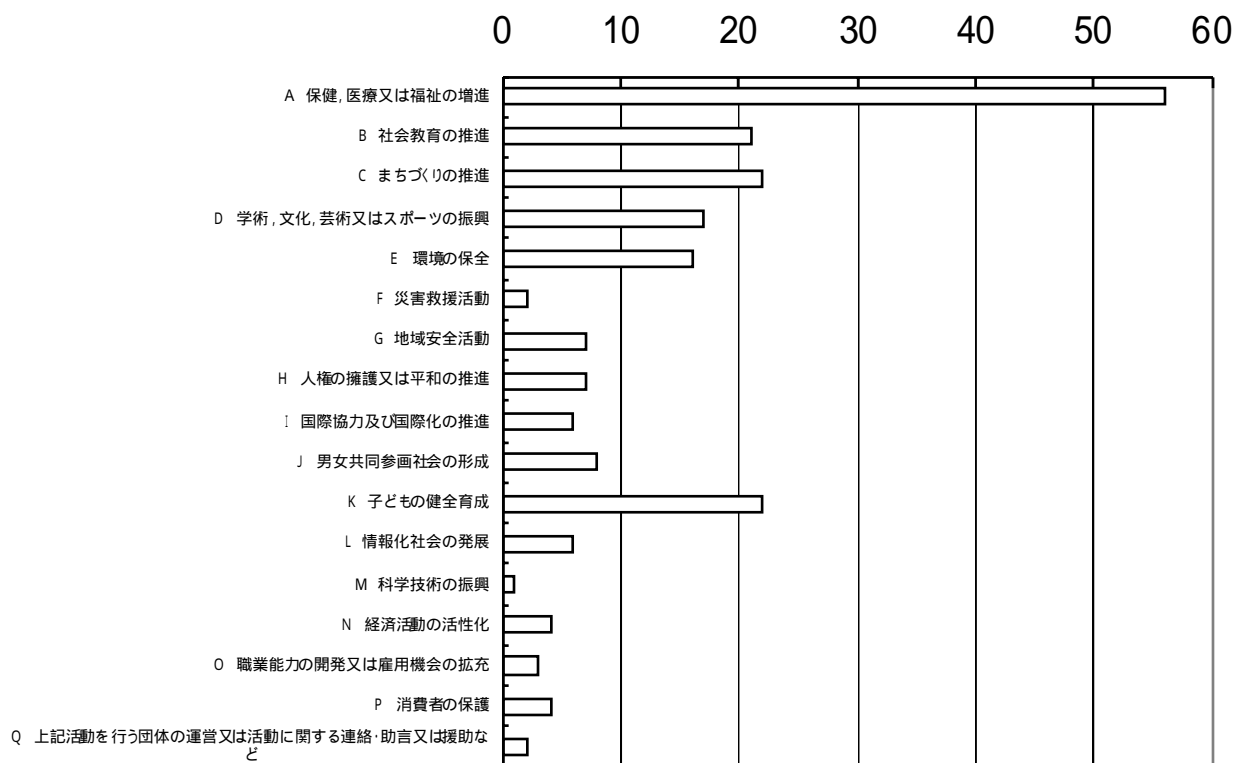


問14 その他、「支援センター」の整備にあたり、御意見、御要望があれば自由に御記入ください。

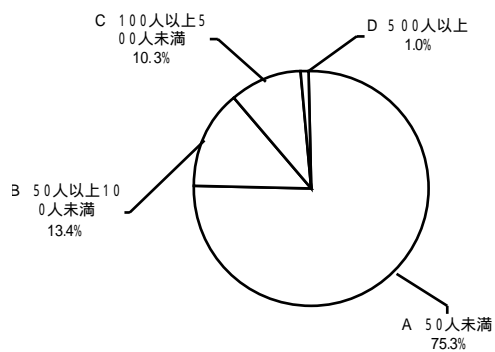
(主なもの 抜粋)

- ・椅子や机は軽くて移動させやすいものを希望
- ・1年間程度、団体が占有できるスペースがあるとよい
- ・管理運営にあたり人材確保が重要
- ・団体の規模、新旧に関わらず公平に利用させて欲しい
- ・支援センターに必要性があるとは考えていない
- ・悪徳商法等の会場として利用されないよう使用目的等を事前にチェックする機能が必要
- ・バリアフリーで整備して欲しい
- ・テーブルや椅子は綺麗に手入れされているものを利用したい
- ・ボランティアセンターとの関係はどのようになるのか
- ・コーディネート機能等を担える人材が必要
- ・設備、備品等、実際の利用を想定しないと、利用がされない可能性がある。要検討
- ・使用規定等をきちんと定めるべき
- ・活動に必要な資機材を保管できるスペースの確保
- ・郵便物や配送物の授受機能
- ・運用は参加団体で分担
- ・共同事務所としての機能
- ・市役所内等に窓口を設け、ソフト面を充実させることが重要で、新たに設置する必要はない
- ・団体の活動内容を把握し、連絡窓口として機能
- ・団体の活動を評価し、広報等で広くPRする
- ・各団体を組織的に結び付け、互いが助け合い効果的な活動ができるようにする
- ・市や市の関連機関の作っている団体等を周知し、それぞれがどのような役割かを整理し、統合すべきものを統合する
- ・現在のボランティアセンターは機能を発揮していない。支援センターは充実した形で展開して欲しい
- ・団体の評価にあたっては、法人格の有無よりも、実績、能力を重視すべき
- ・駅に近く、駐車場(コインパーキングでも可)がなければせっかくの設備が意味をなさない
- ・子どもがNPOやボランティアは何なのか、分かるような場所であつたらよい
- ・ボランティアコーディネーター等係員を常駐させて欲しい
- ・各地域に事務所、作業所機能のある施設として設置して欲しい。(近隣センターへの機能追加でも可)
- ・既存の施設や体制の中で上手に協力できるシステムにして欲しい
- ・コーディネーターに求めるものとして、聞ける人、パイプ役をこなせる人、専門分野に熟知して行政との連携などに心配りができる人など
- ・情報交換ができ、気軽に集まれる沙龙的コーナーが必要、または情報発信基地
- ・全てのNPO、ボランティア活動を網羅できる所であつて欲しい
- ・市民活動団体は運営資金に苦しんでいるため、利用料金は低料金として欲しい

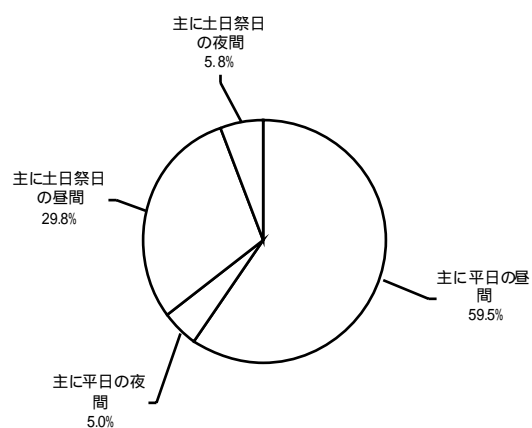
問15 貴団体の活動分野についてお聞きします。



問16 貴団体の会員数についてお聞きします



問17 貴団体の主な活動日及び時間帯についてお聞きします。



(タウンミーティングでの主な意見)

開催日時：平成17年10月28日(金)午後6時30分から8時35分まで

場 所：中央公民館4階集会室2

参加人数：18名(考える会メンバーを含む)

主な意見

(理念)

作ってみる事が先決、出来たものに対して状況と必要に応じて補強と修正を重ねて行けば目的に叶ったものになっていくと思います。

どんな立派な理念でも運営が始まれば矛盾が出ます。その時点で実情に合わせて見直す柔軟性が必要です。運営メンバーに人を得ることです。

(機能・事業内容)

貸事務所の機能を具体化して欲しい。スペースと費用の事を考えると、柏駅周辺にこだわる必要はない。窓口は柏駅周辺としても、貸事務所は沼南という考えもあります。

市に対する手続き、事務的な窓口を市役所内(又は近く)に設置して欲しい。近隣センター等で打ち合わせができる場所(会議ではなく)を使わせて欲しい。また、コピー、パソコン、プリンター等の設備を使わせてもらえれば便利。

交流とか講座等は現有の設備を借用する。NPOに何を委託するのか分かりませんが市役所の職員の方1~2名にまとめ役をやってもらえればその方が効果的ではないでしょうか。人件費はかかるでしょうがNPOに委託してもただではないでしょう。

ワンストップサービスとあるがサポートの限界を定めておかないと混乱する恐れを感じる。

ワンストップサービスは、市役所の機能を覚えるだけでも大変。市役所の職員でも何年もかかる。コーディネーターの能力も育成は人材教育が何年もかかると思う。

やりながら作っていくのはどうか。色々な問題に直面しながら、コーディネーターが成長していけばいいのではないかと。形ばかりでなく、柔軟性があつたほうがいい。

(場所)

場所的な問題は今の時勢ですから公募等でお願ひすれば、地域貢献の一環として提供をしてくれるデパートとか企業が出て来ないでしょうか。経費的な面から運営は全て地域活性化ボランティアのようなものを組織して対応していくことも必要かと思ひます。

(利用料金)

施設を有料というのはおかしいのでは。近隣センターが有料だからというのはおかしいのでは。ボランティア、NPOが活動するのにお金をとるのがおかしいのでは？

利用料についてですが、公益サービスと行政サービスは違う、公益サービスに関しては利用料という形を取っていいのでは。また財政状況に応じて柔軟な利用料体系をとってはどうか。

(その他)

やりながら作っていくのはどうか。色々な問題に直面しながら、コーディネーターが成長していけばいいのではないかと。形ばかりでなく、柔軟性があつたほうがいい。